

2014 年 4 月 24 日

(改訂日:2014 年 4 月 28 日)

※改訂履歴は最終ページに記載

お客様各位

株式会社セゾン情報システムズ

HULFT 事業部

## HULFT クラウド 脆弱性のご報告と対応について

HULFT クラウドで使用している Web アプリケーションフレームワーク(Struts2)に脆弱性が発見されましたので、ご報告いたします。

－ 記 －

### 1. 対象バージョン

HULFT クラウド Ver.1.0.0～Ver.1.5.0

### 2. 対象ユーザ

「1. 対象バージョン」をご利用中のすべてのお客様

### 3. 脆弱性の原因と内容

HULFT クラウドで使用しているWebアプリケーションフレームワーク(Struts2)においてClassLoader を操作される脆弱性が存在し、ウェブアプリケーションの動作権限内で情報の窃取や特定ファイルの操作、およびウェブアプリケーションを一時的に使用不可にさせる攻撃を受ける恐れがあります。

＜ Struts2の問題＞

・Apache Struts2 の脆弱性対策について(CVE-2014-0094)(S2-020, S2-021)

<http://www.ipa.go.jp/security/ciadr/vul/20140417-struts.html>

### 4. 対応方法

2014年4月28日(月)、HULFT クラウドで使用しているStruts2に、脆弱性の対処を行ったモジュール(struts2-core-x.x.x.jar)のご提供を開始いたしました。

「6. 修正モジュールの適用方法」をご参照の上、ご対応をお願い申し上げます。

脆弱性の対処を行ったHULFT クラウドにつきましては、2014年7月リリースを予定しております。

### 5. モジュール提供方法

2014年4月28日(月)より弊社ホームページよりダウンロードが可能となっております。

<http://www.hulft.com/news/info/download/140424.html>

## 6. 修正モジュールの適用方法

### 6.1. Apache Tomcatをご利用の場合

※コンテキスト名をwebft以外に変更している場合はディレクトリ名を読み替えてください。

#### (1) Tomcatの停止

修正モジュールを適用する間は、HULFT クラウドをデプロイしているTomcatは停止してください。

Tomcatが動作している状態では、正常に修正モジュールを適用することができません。

#### (2) HULFT クラウドのバックアップ

修正モジュールを適用する前に、HULFT クラウドのバックアップを行ってください。

バックアップの方法は、「HULFT クラウド 導入マニュアル」をご参照ください。

#### (3) 修正モジュールの適用

修正モジュールを以下のフォルダに上書きコピーします。

Tomcatのインストールディレクトリ/webapps/webft/WEB-INF/lib

※修正モジュールのファイル名はお客様環境によって異なります。

〈HULFTクラウドVer.1.4.0以前をお使いのお客様〉

struts2-core-2.1.8.1.jar

〈HULFTクラウドVer.1.4.0Aをお使いのお客様〉

struts2-core-2.3.15.1.jar

〈HULFTクラウドVer.1.5.0をお使いのお客様〉

struts2-core-2.3.15.3.jar

#### (4) Tomcatの起動

Tomcatの起動を行います。

#### (5) 修正モジュール適用後の確認

疎通テストを行なって、通常通り動作することをご確認ください。疎通テスト方法は、

「HULFT クラウド 導入マニュアル」をご参照ください。

### 6.2. IBM WebSphere Application Serverをご利用の場合

※コンテキスト名をwebft以外に変更している場合はディレクトリ名を読み替えてください。

#### (1) IBM WebSphere Application Serverの停止

修正モジュールを適用する間は、HULFT クラウドをデプロイしているIBM WebSphere Application Serverを停止してください。IBM WebSphere Application Serverが動作している状態では、正常に修正モジュールを適用することができません。

(2) HULFT クラウドのバックアップ

修正モジュール適用前に、HULFT クラウドのバックアップを行ってください。バックアップの方法は、「HULFT クラウド 導入マニュアル」をご参照ください。

(3) 修正モジュールの適用

提供媒体内に格納されている修正モジュールを以下のフォルダに上書きコピーします。

WebSphereがインストールされたフォルダ¥サーバ名¥profiles¥プロファイル名¥  
installedApps¥セル名¥webft.ear¥webft.war¥WEB-INF /lib

※修正モジュールのファイル名はお客様環境によって異なります。

＜HULFTクラウドVer.1.4.0以前をお使いのお客様＞

struts2-core-2.1.8.1.jar

＜HULFTクラウドVer.1.4.0Aをお使いのお客様＞

struts2-core-2.3.15.1.jar

＜HULFTクラウドVer.1.5.0をお使いのお客様＞

struts2-core-2.3.15.3.jar

(4) IBM WebSphere Application Serverの起動

IBM WebSphere Application Serverの起動を行います。

(5) 修正モジュール適用後の確認

疎通テストを行なって、通常通り動作することをご確認ください。疎通テスト方法は、「HULFT クラウド 導入マニュアル」をご参照ください。

【改訂履歴】

2014/04/28 Apache Software Foundationより、当該脆弱性情報に関する追加アナウンス  
として発表のあったS2-021への対応を追加しました。

以上